

国立国語研究所学術情報リポジトリ

宮古方言研究文献目録

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002467

6 宮古方言研究文献目録

- 有元光彦 (1997) 「琉球諸方言の動詞活用形の研究データ篇 宮古方言 (宮古島)」『方言規則地図の提唱とその理論的研究 平成 8 年度文部省科学研究費補助金 奨励研究(A) 研究成果報告書』
- 伊豆山敦子 (2002) 「琉球・宮古 (平良) 方言の文法基礎研究」『消滅に瀕した方言語法の緊急調査研究 (2) 「環太平洋の言語」 日本成果報告書』
- 伊豆山敦子 (2002) 「琉球・宮古 (平良西仲) 方言の名詞語末音と語形変化」『獨協大学外国語学部言語文化学科 マテシス・ウニウェルサリス』 第 3 巻第 2 号
- 稲垣正幸 (1966) 「琉球宮古島アクセントの研究」『都留文化大学研究紀要』 3,
- 岩本忠 (1981) 「宮古伊良部方言調査について」『京都産業大学国際言語科学研究所所報』 2-3,
- 内間直仁 (1984) 「宮古諸島の方言」『講座方言学 10—沖縄・奄美地方の方言—』 国書刊行会
- 内間直仁 (1984) 『琉球方言文法の研究』 笠間書院
- 内間直仁 (2002) 「宮古伊良部島長浜方言」『平成 12 年度～平成 13 年度科学研究費補助金 研究成果報告書』
- 内間直仁 (2002) 「沖縄県宮古・八重山方言の調査研究—伊良部島長浜・西表島祖納方言を中心に—」『平成 12 年度～平成 13 年度科学研究費補助金研究成果報告書』
- 内間直仁 (2004) 「古代日本語のワ行子音の[b]音化について—宮古・八重山方言を中心に—」『国語学』 55-2
- 内間直仁・山口栄臣 (2002) 「宮古伊良部島長浜方言」『沖縄県宮古・八重山方言の調査研究—伊良部島長浜・西表島祖納方言を中心に—』
- 浦崎安常 (1972) 『宮古の俚諺格言』 宮古の俚諺格言研究会
- 大城健 (1975) 「琉球宮古島の童名について」『人類科学』 27, 九学会連合
- 大野眞男ほか (1998) 「宮古大神島方言の音声 —単語と文法— (付. 狩俣方言)」『平成 8 ~ 9 年度文部省科学研究費成果報告書』
- 沖縄県教育委員会 (1978) 『多良間島の方言<琉球方言緊急調査第 3 集>』
- 沖縄国際大学高橋ゼミ (1983) 「多良間方言調査報告」『沖縄方言研究』 5
- 奥平博尚 (1996) 『宮古方言散歩路 平良的表現』 新報出版
- 垣花恵美 (2003) 「伊良部島長浜方言の動詞」『方言第 11 号下巻』 沖縄国際大学野原ゼミ
- 加治工真市 (1983) 「沖縄県平良市方言」『全国方言辞典 1』 角川書店
- 加治工真市ほか (1977) 「宮古大神島方言」『琉球の方言』 3
- 加藤正信 (1976) 「宮古方言の親族名と人称詞」『沖縄—自然・文化・社会—』 弘文堂
- 兼島和枝 (2003) 「宮古・平良市宇島尻方言の音韻研究」『方言第 11 号下巻』 沖縄国際大学

野原ゼミ

- かりまたしげひさ (1982) 「宮古方言のフォネームについて」『琉球の言語と文化—仲宗根政善先生古稀記念—』仲宗根政善先生古稀記念論集刊行委員会
- かりまたしげひさ (1984) 「琉球宮古島・城辺町保良方言の研究—動詞形態論のための素描—」『沖縄言語研究センター資料』52, 沖縄言語研究センター
- かりまたしげひさ (1984) 「宮古方言のフォネームはいかに記述されてきたか」『沖縄言語研究センター資料』53, 沖縄言語研究センター
- かりまたしげひさ (1986) 「宮古方言の「中舌母音」をめぐって」『沖縄文化』66, 沖縄文化協会
- かりまたしげひさ (1987) 「宮古方言の成節的な子音をめぐって」『琉球方言論叢 琉球方言研究クラブ 30 周年記念』琉球方言論叢刊行委員会
- 狩俣繁久 (1992) 「宮古方言」『言語学大辞典 (下巻)』三省堂
- 狩俣繁久 (1992) 「[書評]『城辺町史 (第 5 巻民話篇)』城辺町史編纂委員会」琉球新報 1992 年 1 月 27 日
- かりまたしげひさ (1993) 「沖縄宮古大神島方言のフォネーム」『沖縄言語研究センター研究報告—琉球列島における音声の収集と研究—』沖縄言語研究センター
- 狩俣繁久 (1993) 「宮古大神島方言のフォネームについてのおぼえがき」『沖縄文化』78, 沖縄文化協会
- 狩俣繁久 (1993) 「大神方言のフォネームをめぐって」78, 沖縄文化協会
- 狩俣繁久 (1996) 「空気力学的な観点から見た宮古諸方言の音韻変化についてのおぼえがき」『言語学林 (1995-1996) 柴田武先生喜寿記念論文集』三省堂
- かりまたしげひさ (1996) 「宮古方言の音韻変化についてのおぼえがき—空気力学的な観点から見て—」『言語学林 96-97』, 三省堂
- 狩俣繁久 (1996) 「宮古研究の先駆者ニコライ・A・ネフスキー」『琉球に魅せられた人々—外からの琉球研究とその背景—』琉球大学公開講座委員会
- 狩俣繁久 (1997) 「琉球列島の言語 (宮古方言)」『言語学大辞典セレクション 日本列島の言語』三省堂
- 狩俣繁久 (1999) 「宮古諸方言の動詞「終止形」の成立について」『琉球大学法文学部紀要 日本東洋文化論集』5
- 狩俣繁久 (1999) 『琉球宮古方言の音声資料の収集・研究—琉球宮古諸方言の音韻』『平成 10 年度文部省科学研究費成果報告書』
- 狩俣繁久 (1999) 「琉球宮古方言の動詞終止形について」『琉球大学法文学部紀要 日本東洋文化論集』5
- 狩俣繁久 (2000) 「日本の方言探訪・宮古のことば」『月刊言語』11 月号
- かりまたしげひさ (2000) 「多良間島方言の系譜—多良間島方言を歴史方言学的観点からみる—」『沖縄県多良間島における伝統的社会システムの実態と変容に関する総合的研

究』琉球大学法文学部

- 狩俣繁久 (2002) 「宮古方言研究のこれまで・これから」『国文学 解釈と鑑賞』7月号, 至文堂
- 狩俣繁久 (2003) 「琉球語宮古諸方言の形容詞についてのおぼえがき一城辺町保良方言の形容詞の活用を中心に一」『平成15年度文部科学省特定領域研究成果報告書(環太平洋の消滅に瀕した言語に関する緊急調査研究)』
- 狩俣繁久ほか (1998) 『宮古のフォークロア』砂子屋書房
- 川平浩二 (1963) 「<南島のあいさつことば> 沖縄宮古郡多良間村塩川地方」『方言研究年報』6
- 日下部文夫 (1973) 「平良(宮古島)における所の呼びかた」『人類科学』25, 九学会連合
- 日下部文夫 (1976) 「人の一生を表わすことば」『沖縄一自然・文化・社会一』弘文堂
- 久野マリ子 (1983) 「琉球宮古方言基礎語彙の研究報告」『国学院大学日本文化研究所所報』19-5
- Chew John J. (1976) “Standard Japanese and the Hirara dialect: case study of linguistic convergence” *The Journal of the Association of Teachers of Japanese* Vol. 11, No. 2/3, pp. 235-248.
- Koloskova, Yulia and Ohori, Toshio (2008) “Pragmatic factors in the development of a switch-adjective language. A case study of the Miyako-Hirara dialect of Ryukyuan” *Studies in Language* 32-3. Special Issue on Parts of Speech: Descriptive Tools, Theoretical Constructs. pp610-636
- 崎村弘文 (1983) 「琉球先島方言のアクセント体系・再考」『鹿児島大学南方海域研究センター紀要』4-1
- 崎山理 (1963) 「琉球・多良間島・水納島の音韻」『音声の研究』10
- 崎山理 (1963) 「琉球宮古島の舌尖母韻について」『音声学会会報』112
- 崎山理 (1963) 「宮古島方言仮名表記法の歴史と一試案」『沖縄文化』10
- 崎山理 (1963) 「琉球・宮古方言比較音韻論」『国語学』54
- 崎山理 (1964) 「琉球・多良間方言の南方的要素」『民族学研究』29-1
- 崎山理 (1965) 「琉球宮古方言の舌尖母韻をめぐって」『国語学』60
- 佐渡山正吉 (1983) 「万葉歌と方言」『地域と文化』20, ひるぎ社
- サムエル・H・北村 (1960) 「宮古方言音韻論の一考察」『国語学』41, pp 94-105.
- 柴田武 (1971) 「琉球宮古語の音韻体系と「宮古仮名」」『言語学論叢』11
- 柴田武 (1971) 「語彙研究の方法と琉球宮古語彙」『国語学』87
- 柴田武 (1972) 「宮古方言の研究とその意義」『人類科学』24
- 柴田武 (1974) 「気象と言葉一沖縄・宮古島方言の風と雨一」『言語生活』275
- 柴田武 (1976) 「宮古の人名語彙」『沖縄一自然・文化・社会一』弘文堂
- 柴田武 (1976) 「沖縄平良市方言の付属語 d u および n u、g a について」『佐藤喜代治教

授退官記念国語学論集』桜楓社

- 柴田武（1980）「沖縄宮古語の語彙体系」『言語』9-1～12
- 柴田武（1981）「沖縄平良方言の音韻体系」『＜藤原与一先生古稀記念論集＞方言学論叢1 方言研究の推進』三省堂
- 柴田武ほか（1974）「宮古市平良市方言における生活時間語彙」『人類科学』26
- 島尻沢一（1983）「琉球宮古方言の助詞—野原方言の助詞 ga と nu—」『琉球大國語』2
- 島尻沢一（1987）「宮古野原方言の研究—格助詞を中心に—」『琉球方言論叢 琉球方言研究クラブ 30 周年記念』琉球方言論叢刊行委員会
- 下地賀代子（2004）「宮古多良間方言の音韻及びその変化の現象」『琉球の方言』28
- 下地賀代子（2006）『多良間方言の空間と時間の表現』千葉大学 博士論文
- 下地琴恵（1998）「宮古の語彙について（童名・姓・屋号・親族語彙）」『方言第6号上巻』沖縄国際大学野原ゼミ
- 下地朝良（1968）「宮古島方言に生きている古語」『沖縄文化』26・27, 沖縄文化協会
- 下地理則（2006）「南琉球語伊良部方言」中山俊秀・江畑冬生編『文法を描く—フィールドワークに基づく諸言語の文法スケッチ1』アジアアフリカ言語文化研究所
- Shimoji, Michinori（2008）*A Grammar of Irabu, a Southern Ryukyuan Language*. オーストラリア国立大学 博士論文
- Shimoji, Michinori（2011）“Quasi-Kakarimusubi in Irabu” *Japanese/Korean Linguistics* 18
- Shimoji, Michinori and Pellard, Thomas [eds.]（2011）*An Introduction to Ryukyuan Languages*. Tokyo: ILCAA
- 下地良男（1964）“An Analysis of Pitch Interference in Japanese Spoken by the Miyako Speaker” 『琉球大学文理学部紀要人文篇』8
- 下地良男（1974）「南島宮古方言の音韻変化について」『言語』3-7
- 新里幸昭（1978）「宮古の文学」『沖縄言語研究センター資料』1
- 新里幸昭（1987）「ハワイ大学宝令文庫蔵『宮古の歌』語彙・索引集」『沖縄文化』69
- 新里幸昭（1987）「『宮古島の神歌』の研究」『琉球方言論叢 琉球方言研究クラブ 30 周年記念』琉球方言論叢刊行委員会
- 杉村孝夫（2003）『来間島方言の記述的研究』2001年度～2002年度科学研究費成果報告書
- 高橋俊三（1993）「多良間方言の語彙（中間報告）」『多良間島調査報告書（1）』沖縄国際大学南島文化研究所
- 高橋俊三（1993）「多良間方言の動詞の問題点」『多良間島調査報告書（1）』沖縄国際大学南島文化研究所
- 高橋俊三（1994）「多良間方言の語彙（中間報告2）」『多良間島調査報告書（2）』沖縄国際大学南島文化研究所
- 高橋俊三（1995）「多良間方言の語彙（中間報告3）」『多良間島調査報告書（3）』沖縄国際

大学南島文化研究所

- 田代安定 (1888) 「沖縄宮古島及沖縄島対訳方言集」『東京人類学会雑誌』3-29
- 津波古敏子 (1979) 「多良間島塩川方言の名詞形態論 (中間報告)」『沖縄言語研究センター会報』10
- 津波古敏子 (1982) 「多良間島塩川の方言における音韻の考察」『琉球の言語と文化—仲宗根政善先生古稀記念—』仲宗根政善先生古稀記念論集刊行委員会
- 仲宗根政善 (1975) 「言語学から見た沖縄—宮古方言の語彙体型を求め—」『人類科学』27
- 仲宗根政善 (1976) 「宮古および沖縄本島方言の敬語法—「いらっしゃる」を中心として—」『沖縄—自然・文化・社会—』弘文堂
- 仲宗根政善ほか (1973) 「宮古方言の研究」『宮古諸島学術調査研究報告 (言語・文学編)』琉球大学沖縄文化研究所
- 長浜数子 (1979) 「宮古歌謡ピャーシグイ論 (上) —歌謡と場の関連を中心に—」『沖縄文化』52
- 仲原穰 (2002) 「沖縄宮古島保良方言の音韻」『琉球の方言』26
- 中松竹雄 (1972) 「琉球語文法ノート—宮古島ウルカ方言の助詞の形態と用法—」『琉球大学教育学部紀要』16, pp1-14.
- 中松竹雄 (1973) 「伊良部島のむかしばなし—音韻仮名表記の試み—」『琉球の文化』4
- 中松竹雄 (1978) 「基礎語彙の比較的研究 (3) —宮古方言・その1—」『琉球大学教育学部紀要』22
- 中松竹雄 (1979) 「基礎語彙の比較的研究 (4) —宮古諸島方言・その2—」『琉球大学教育学部紀要』23
- 中松竹雄 (1983) 「「草鎌で草を刈る」の言語地図—伊良部島の場合—」『琉大国語』2
- 名嘉真三成 (1978) 「沖縄県宮古久松方言の形容詞」『日本語研究』1
- 名嘉真三成 (1978) 「切断動詞 [sui] [ki:] [batsi] について—沖縄・宮古西原方言の例—」『日本語研究』1
- 名嘉真三成 (1978) 「琉球方言の動詞活用の研究—宮古方言を中心に (論文要旨)」『日本語研究』1
- 名嘉真三成 (1980) 「宮古西原方言の《のぼる》と《あがる》の意味」『日本語研究』3
- 名嘉真三成 (1981) 「琉球宮古方言の動詞終止形の成立」『沖縄文化』55
- 名嘉真三成 (1982) 「琉球宮古方言の動詞の接続形」『沖縄文化』58
- 名嘉真三成 (1982) 「宮古西原方言の動詞の活用」『琉球の言語と文化—仲宗根政善先生古稀記念—』
- 名嘉真三成 (1982) 「宮古方言のふるさとあたらしさ」『国文学 解釈と鑑賞』47-9
- 名嘉真三成 (1982) 「宮古方言の上一段動詞の四段化現象」『沖縄言語研究センター会報』

- 名嘉真三成 (1983) 「琉球宮古方言の形容詞」『琉球大学教育学部紀要』 26
- 名嘉真三成 (1983) 「宮古西原方言の助詞」『琉球の方言』 8
- 名嘉真三成 (1984) 「宮古方言の文法」『国文学 解釈と鑑賞』 49-1
- 名嘉真三成 (1984) 「宮古西原方言の形容詞」『現代方言学の課題 (第2巻)』 明治書院
- 名嘉真三成 (1984) 「宮古のことば」『新沖縄文学』 61, 沖縄タイムス社
- 名嘉真三成 (1985) 「宮古長浜方言の動詞の活用」『琉球の方言』 9
- 名嘉真三成 (1985) 「宮古方言の上一段動詞の四段化現象」『沖縄文化研究』 11
- 名嘉真三成 (1986) 「宮古狩俣方言の動詞の活用」『琉球の方言』 10
- 名嘉真三成 (1987) 「宮古方言の代名詞」『国文学 解釈と鑑賞』 52-2
- 名嘉真三成 (1988) 「ネフスキーと宮古方言」『国文学 解釈と鑑賞』 53-1
- 名嘉真三成 (1988) 「宮古多良間島塩川方言の動詞の活用」『琉球大学教育学部紀要』 32
- 名嘉真三成 (1988) 「宮古西原方言の語彙 (I)」『琉球の方言』 13
- 名嘉真三成 (1989) 「琉球宮古方言の動詞の接続形」『沖縄文化』 18
- 名嘉真三成 (1990) 「宮古仲地方言の動詞の活用」『琉球大学教育学部紀要』 36
- 名嘉真三成 (1990) 「宮古西原方言の語彙 (II)」『琉球の方言』 14
- 名嘉真三成 (1991) 「宮古西原方言のアスペクト」『国文学 解釈と鑑賞』 56-1
- 名嘉真三成 (1991) 「宮古西原方言の語彙 (III)」『琉球の方言』 15
- 名嘉真三成 (1991) 「宮古西原方言の語彙 (IV)」『琉球の方言』 16
- 名嘉真三成 (1992) 「宮古方言」『国文学 解釈と鑑賞』 57-7
- 名嘉真三成 (1995) 「西原方言の形容詞の意味論的研究」『琉球の方言』 18・19
- 名嘉真三成 (1997) 「沖縄宮古西原方言の文末詞」『日本語文末詞の歴史的研究』 三弥井書店
- 名嘉真三成 (1998) 『琉球方言の古層』 第一書房
- 名嘉真三成 (1998) 「宮古西原方言の語彙 (VI)」『琉球の方言』 22
- 名嘉真三成 (1999) 「宮古西原方言の語彙 (VII)」『琉球の方言』 23
- 名嘉真三成 (2000) 「宮古西原方言の語彙 (VIII)」『琉球の方言』 24
- 名嘉真三成ほか (1974) 「宮古方言母韻融合の調査報告」『沖縄言語研究センター資料』 49
- 名嘉真三成・中本謙 (2001) 「宮古西原方言の語彙 (IX)」『琉球の方言』 25
- 名嘉真三成・中本謙 (2002) 「宮古西原方言の語彙 (X)」『琉球の方言』 26
- 中本正智 (1976) 『琉球方言音韻の研究』 法政大学出版局
- 永山勇 (1966) 「先島 (宮古・八重山) 方言覚え書 (2)」『国語研究』 17
- 根間弘海 (1968) 『宮古方言における助詞の一部と代名詞の形態—日本語 (東京方言) との対応比較において—』 沖縄女子短期大学
- 根間弘海 (1969) 『宮古方言における文節音素の研究—日本語 (東京方言) を副次的に一』 沖縄女子短期大学
- 野原三義 (1990) 「来間方言の助詞 (1)」『宮古・下地町調査報告書 (地域研究シリーズ No.15)』

- (1) 』沖縄国際大学南島文化研究所
野原三義 (1991) 「来間方言の助詞 (2)」『宮古・下地町調査報告書 (地域研究シリーズ No.15)』
- (2) 』沖縄国際大学南島文化研究所
野原三義 (1992) 「下地町方言助詞の研究 付 与那覇方言動物・植物語彙等」『宮古・下地町調査報告書 (地域研究シリーズ No.15)』 (3) 』沖縄国際大学南島文化研究所
野原優一 (1987) 「宮古野原方言の動詞活用」『琉球方言論叢 琉球方言研究クラブ 30周年記念』琉球方言論叢刊行委員会
久野マリ子 (1982) 「全国的視野から琉球宮古諸島方言を観る」『国学院大学日本文化研究所所報』18-6
平沢洋一 (1985) 「池間方言係助詞の統語機能」『沖縄文化研究』11
平山輝男 (1964) 「琉球宮古方言の研究」『国語学』56
平山輝男 (1966) 「琉球先島方言の研究」『都立大学方言学会会報』16
平山輝男 (1966) 「琉球先島方言のアクセント体系」『国語学』67
平山輝男 (1983) 『琉球宮古諸島方言基礎語彙の総合的研究』桜楓社
平山輝男ほか (1967) 『琉球先島方言の総合的研究』明治書院
Pellard, Thomas (2009) Ōgami — Éléments de description d'un parler du Sud des Ryūkyū 博士論文
外間守善 (1968) 「宮古島狩俣の神歌」『文学』36-12
松森晶子 (2000) 「琉球アクセント調査のための類別語彙の開発—沖永良部島の調査から」『音声研究』4(1), pp61-71.
松森晶子 (2010) 「多良間島の3型アクセントと「系列別語彙」」上野善道 (監) 『日本語研究の12章』明治書院, pp.490-503.
宮古農林高校生物クラブ (1978) 『宮古島の植物方言集』
宮良当壮 (1961) 「方言の実態と共通語の問題点—沖縄先島—」『方言学講座 (4)』東京堂
村山七郎 (1987) 「[書評] 平山輝男編著 琉球宮古諸島方言基礎語彙の総合的研究」『奄美方言基礎語彙の研究』『国語学』149
本永守靖 (1972) 「平良方言の音韻法則」『琉球大学教育学部紀要』16
本永守靖 (1973) 「平良方言の動詞の活用」『琉球大学教育学部紀要』17
本永守靖 (1978) 「宮古平良方言の形容詞」『琉球大学教育学部紀要』22-1
本永守靖 (1982) 「伊良部方言の研究」『琉球の言語と文化—仲宗根政善先生古稀記念—』仲宗根政善先生古稀記念論集刊行委員会
本永守靖 (1994) 『琉球圏生活語の研究』春秋社
山口栄臣 (2002) 「語彙」『平成12年度～平成13年度科学研究費補助金研究成果報告書』
山田進 (1972) 「現代宮古方言味覚語彙考—東京方言との比較を中心に—」『沖縄文化』39
与儀達敏 (1934) 「宮古島方言研究」『方言』4-10, 春陽堂
与儀達敏 (1937) 「宮古方言を中心として」『南島論叢 (伊波普猷先生還暦記念)』沖縄日報

社

吉村玄得 (1974) 『沖縄宮古ことわざ全集 付録 やさしい方言』

吉本隆生 (1998) 「夏秋冬春 夏の抄 (1) ヴィブィ・ガッサァ」『EDGE No.7』APO (Art Produce Okinawa)

琉球大学沖縄文化研究所 (1968) 『宮古諸島学術調査研究報告一言語・文学編一』

琉球大学方言研究クラブ (1974) 「宮古・久松方言の音韻と動詞の活用体系」『琉球方言』
12・13, 琉球大学方言研究クラブ